

翌春に向けて

歯学部生の活動～翌春に向けて

歯学科1年 芝野智果

入学してから半年以上が経ち、歯学部ニュースを執筆する機会を頂きました。歯学部生の活動といってもまだまだ本格的な勉強は始まっておらず、学部内での交流の機会も多くはありませんが、皆様に私たちの様子をお伝えできればと思います。

有難いことに、今年は新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、日常に戻りつつある中での入学となりました。コロナ禍で人との交流を制限された学生生活や受験期を経て入学してきた私たちは、どこか久しぶりの人との交流に戸惑いつつ、期待に胸を膨らませソワソワしていたことを今でもよく覚えています。授業も基本的に対面となり、1限からの授業に疲弊しつつも友人と会える毎日を楽しむ日々を送っています。そんな中、私が入学してからこれまでに印象的であった出来事について紹介したいと思います。

前期に行われた早期臨床実習は、今年から実際に病院内で行う実習が再開となりました。主に、6年生の先輩方に治療をしていただく患者役実習と、各診療科を見学させていただく治療見学実習を行いました。治療を行う先輩方の姿に将来の自分を重ね、大いに刺激をもらい、各診療科ではこんなにも歯科で様々な治療が行われていることを実際に目で見て、一生懸命メモを取りながら多くの学びを得ることができ、大変貴重な経験となりました。まだ歯学の勉強をしていない私たちにとって、大きなモチベーションとなりました。落ち着いたとはいえコロナがまだ完全に収まっていない中、私たちの学びのためにご協力くださった患者様、ご尽力くださった先生方に本当に感謝い

たします。

また、今年は4年ぶりとなる歯学部運動会が開催されました。初めて聞いたとき、大学生になって運動会があるのかと驚きましたが、各学年おそろいのTシャツとはちまきを身に着け、全力で取り組む姿はとても楽しい記憶として残っています。入学してからほとんど全員で集まる機会はなかったため、学年内、そして学年を超えた交流を深める場となりました。私は運動会では看板係となりました。運動会を経験したことがない先輩方も多く勝手がよくわからない中、私たちの学年はリーダーを中心に、下絵を描いてくれた人、看板係ではないのに手伝いに来てくれた人などみんなの協力で、満足のいく絵を完成させることができました。五十嵐から旭町に通わなければならない人も多かったのにも関わらず、みんなが協力して一生懸命取り組んだこと、1位に選ばれず悔しかったことも、とても良い思い出となりました。

1年生も残りわずかとなった今、先輩方に2年生以降の学業の大変さを伺う度に、来年度の自分を想像して不安を抱きながらも、目の前のことに精一杯取り組み、充実した日々を送っています。今年度の新たな出会い、新たな学びを大切に、みんなで協力し合い、来年度以降の勉強や学生生活に励んでいきたいと思っています。



歯学部運動会にて 筆者2列目左から2番目

歯学部生の活動

歯学科1年 田邊 魁

紅葉していた木々の葉も徐々に落ち、外の空気も冷たくコートが手放せなくなってきました。日の入りも早くなり、新潟特有の曇天の雲が垂れ込む日々が続く、冬の気配の到来とともに、「今年ももう終わりかー」という哀切と安堵が入り混じる複雑な面持ちです。年齢とともに加速度的に一年の経過が早まっており、その実感に焦りつつも、それだけ日々が充実していると感じています。さて、歯学部生の活動ということで執筆の機会を頂きましたので、拙い文章で恐縮ですが今年度を振り返りつつ綴らせていただきます。

1年生は一般教養科目を受講すべく、日々五十嵐キャンパスに通い、他学部の学生とともに講義を受けています。基本的に希望通りに授業を組むことができ、空きコマも自由に作れるので、勉強に部活にバイトに恋に、皆それぞれ充実した日々を送っているようです。一般教養科目ということで、文系理系問わず多種多様な講義が受けられるわけですが、全学ならではの講義に興味に任せて受講しました。「平和を考える」、「教養を考える」、「ピアノ」、「平和と現代のグローバル安全保障論」、「中東イスラーム言語文化入門」などなど、今後おそらく関連した授業を受けることはないように思いますが、幅広い知識に裏打ちされた教授の講義は大変面白く、知的探求心をくすぐられつつ、知識の集積にとどまらない考えることを主体

とする授業形態により、一人で本を読んでいるだけでは得ることができない貴重な経験ができたように思います。2年生以降は専門科目が目白押しなのですが、役に立つかどうかという視点で学ぶだけではなく、役に立たないからこそ役に立つ、すぐには役に立たないだろうけれども学んでみるといった姿勢でおもしろがって勉強し、得た知識をひけらかすのでは無く、その知識を基に、解答のない難しい問いに対して「では自分はどう考えるのか」という思考過程を大切にしていきたいと思います。

さて、大変地味な学生生活を送っているのですが、これといって取り立ててご報告することも無いのですが、今年度は新潟駅前で素敵な居酒屋を見つけようと自主的に活動してまいりました（20歳は優に超えております）。食べログなどの評価サイトに頼らず、自分の嗅覚を頼りにストイックに探し求めてまいりましたが、先月ついに見つけてしまいました。一見独りでは入りづらい歴史を感じる佇まい、カウンター席を中心としたこぢんまりとした店内は雰囲気がとてもよく、笑顔が素敵な老夫婦が営んでおりました。新潟全域から取り寄せられた豊富な日本酒の品揃え、ひと手間加えられたこだわりの酒の肴に舌鼓をうちつつ自然と笑みがこぼれる、2023年個人的ハイライトの瞬間でした。今後もお世話になります。

最後になりますが、こんな私をいつも支えてくれる家族、優しく接してくれる同期、先生方すべての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

翌春に向けて

口腔生命福祉学科1年 昆 ゆうり

新潟大学に入学し、もう既に半年が過ぎました。最初は地元を離れての生活に寂しさを感じたり、家事を全て1人でやることに苦労したりしました。しかし、見ず知らずの場所を開拓してみることや、新しい友達と一緒にご飯を食べに行くことに楽しみを見出して、今は楽しい日々を送っています。

私は一学期に、英語の授業の単位を免除する為にTOEICで730点をとれるように沢山勉強をしていました。なぜ取ろうかと思ったかという、私は大学院に行こうと考えているので、そのためにつかう教科である英語を自分で勉強する習慣を付けておきたかったからです。大学院での研究では、最先端の情報に触れなければならないので、海外で書かれた資料を読むためにも英語は必要だと思います。また、TOEICを受けることで自分のレベルを知ることができる上、将来就職する際に役立てることが出来ます。これを大学1年生の早いうちに挑戦することが出来て良かったです。大学受験を終えてから勉強を全くしていなかったため、集中力が続きませんでした。大学の勉強スペースや図書館に通いながら、勉強を頑張りました。7月に受けて結果は無事750点を取ることができました。この結果に満足せず、これからも勉強を続けて行きたいです。英語系のサークルにも参加してみたいと思います。

1年生は基本的に五十嵐キャンパスで授業を受けます。五十嵐キャンパスでは、他の学部の人と関わる機会もあります。授業の中でのディスカッションでは、学部に基づいた考え方を聞くことが出来ます。学食の会場は3箇所あり、出来たての温かいご飯を食べられます。

1年生の1学期に行われた早期臨床実習では、実際に大学病院に行って見学させてもらうという貴重な体験をさせてもらいました。最初は、朝早く起きて行くのが大変でしたが、それ以上に学べることが沢山あり、自分も早く歯科衛生士として働きたいという気持ちが強まりました。私が特に印象に残っているのは、1人の患者さんに対して沢山の人が関わっているということです。患者さん自身でも自分の痛い場所が曖昧な時でも、様々な専門分野の歯科医師が話し合いながら、その原因を突き止めようと一生懸命になっていました。グループディスカッションでは、歯学科の方とグループになって実習で学んだことから疑問点を洗い出し、それについて自分たちで調べて発表する準備をしました。私の班では「予防歯科の今と昔」というタイトルで発表をすることになりました。自分たちでコミュニケーションを取りながら構成を考え、発表しました。他のグループの発表を聞く時も様々な研究や考え方が聞けて、有意義な時間でした。

2年生になると本格的に専門教科の勉強が旭町キャンパスで始まります。歯科衛生士になるために着実に知識をつけていき、仲間と協力し合いながら頑張っていきたいです。

歯学部生の活動

歯学科2年 大橋 薫

強烈な夏の暑さが和らぎ涼しい日も増えてきました。この原稿を書いている現在、二年生になってからはや半年が経過しようとしています。九月の前期試験を終え、少しホッとしています。二年生になって編入生の新しい仲間が増え、授業内容も専門性が増して、歯科医師を目指して勉強していることを実感する瞬間が多くなってきました。始まったばかりの四月ごろは、それまでの五十嵐キャンパスでの授業や生活とは大きく異なった環境に戸惑いも多くありました。時間割はみっちりであることに加え専門的な勉強に慣れていくのは大変でしたが、友人たちと助け合って試験を乗り越える日々でした。これまでの出来事を振り返りつつ、来春に向けての抱負を述べたいと思います。

学校行事に関して言えば、五月には一から六学年そろっての歯学体がありました。コロナ禍で最近では開催されていなかったそうですが今年は開催されたおかげで準備や運営を通して学年の親睦も深まったと思います。玉入れ、パン食い競争、綱引き、リレーなどなど涙はありませんでしたが笑いにあふれた歯学体でした。

行事だけでなく、個人的には昼食時にクラスメイトと勉強に関するだけでなく他愛もない日常会話の時間が増えたことをとてもうれしく思っ

ています。一年生の頃は人によって選択する授業が色々だったので一部の人と限られた時間でしか交流がありませんでしたが、二年生になってそれまで話したことがなかったクラスメイトとも親睦を深めることができます。

後期からはグループワークや発表などの機会が増えると聞いています。九月の試験を通して学友間での情報交換や教え合いが大切だと改めて気づかされました。後期の授業でも勉強に対する意識を高く保ちながら周りとは切磋琢磨して励みたいです。

また、歯学部ニュースの中で言及されている先輩方がいらっしゃいましたが、三年生になると解剖学実習が始まり、二年で学んだ内容が頭に入っていることが大事だということなので、ただ試験に合格することを目的とするのではなく先を見据えた学習を進めていきたいと思います。二年生になった現在、学んでいる科目は基礎的なものがほとんどですが、この基礎の学びがこれから先のさらに専門的な歯科に関する学びや国家試験などに生きてくることははっきりとわかっています。座学が多い今の勉強が将来歯科医師としてどのような場面で役に立つのか想像しながらモチベーション向上を図りたいです。そのために、授業を受けるにあたって予習と復習にしっかり取り組み、充実した今後の学校生活を送りたいです。さらに、勉強だけでは視野が狭くなってしまうのでクラスメイトとの交流や学校行事にも全力で向きあうことで人間性も磨きながら成長していきたいです。

歯学部生の活動

歯学科2年 高山良太

この春に2年に進学し、忙しく生活する中で早くも後期を迎えています。この半年間で大学生活は大きな変化を迎え、多くの方がより一層学習や部活動、アルバイトに励んでいます。2年での授業はより深く専門的で、将来につながる学習だと実感する内容がほとんどになってきました。更には新型コロナウイルスの対策が緩和され始め、様々な行事が再開されたりや日々の行動制限が無くなったことで、より充実した生活を送れていると感じます。

そんな半年間の中で、最も大きな出来事と言えば、前期の定期試験だと感じています。前期の定期試験は、春からの授業を試験範囲として、夏期休業明けに行われました。夏期休業が明け、久しぶりに友人に会うと、「休業中も試験のことが頭を離れなかった」という人や、「試験勉強がなかなか進まなかった」という人が、自分も含め多くいました。夏期休業を心の底から満喫できた人は少ないのではないかと思います。しかし、休業明けから試験期間までの間、試験期間中も含めて夜遅くまで図書館や、自習室などに集まって同級生で協力し合いながら試験勉強をしていました。そ

れぞれが同級生の勉強法を参考にしながら協力して学習する姿が印象に残っています。

なんだかんだ定期試験は終了しました。後期になり、前期に比べて暇になるかなと少々期待していましたが、そんなことはありませんでした。前期は毎週提出しなければならないレポートが少なかったのに対して、後期は実習などで提出課題が増え、課題に取り組む毎日になっています。前期の学習で忘れてしまった内容などは補填しながらレポートを作成しなければいけないため、かなりの時間がかかってしまっています。レポートは大変ですが、実習を行う中で、自然と学年内のいろいろな人と話す機会が増え、同級生間での意見交換や交流が活発になったように感じます。多くの人とコミュニケーションを取ることが出来て、私も楽しく過ごせていますし、学年にとっても良いことだと思います。

さて、残りの2年生の期間も課題や試験などに追われながらあっという間に過ぎ、来春からは3年生になります。2年生では基礎系の科目が中心となっていますが、3年生からは専門科目が多くなり実習も増えます。2年生で得た知識は3年生でも必要となりますし、もちろん国家試験でも使います。座学と実習を組み合わせしっかりとした知識と技能を身につけられるように今から努力していきたいと思います。

歯学部の様子～来春に向けて～

口腔生命福祉学科2年 加藤万葵

歯学部2年生になりすでに半分以上が過ぎました。来春に向けての目標を掲げるにあたり、まずはこの半年間を振り返ってみようと思います。

今年度からオンライン形式での講義が無くなり、全ての講義が対面形式となりました。今まで話したことのなかったクラスメイトと話す機会も増え、「これからこのメンバーと一緒に頑張っていくのだな」と改めて感じる事ができました。前期をこのクラスで過ごしてみて、就活も、国家試験も一人だけでは決して達成することはなく、同じ目標のために頑張る仲間が存在は非常に大切だと実感しました。それを特に感じたのは前期の試験期間です。今年度から専門科目が始まり、覚えることも、難しい内容も多く、試験勉強は本当に大変でした。そんな中、重要な部分をまとめたノートを見せてくれたり、先輩から得た情報を共有してくれたりした友人のおかげで、なんとか試験を乗り越えることができました。全員で合格しよう、全員で進級しようという連帯感があり、こうした経験から、チーム医療の力が身につけていくのだと感じました。

前期の試験が終了してからは、基礎実習室、相互実習室での実習も始まりました。身だしなみ、手洗い、消毒などに気を配り常に清潔を意識する

ことで、将来医療従事者になるという自覚が強く芽生えました。スケーリング、ブラッシング指導など様々な実習を行う中で感じたのは、日頃から今までの学習内容と、実習で新たに学んだ内容の復習が重要だということです。例えばスケーリングをする際には、歯の本数や形態をよく分かっている必要があります、さらに部位ごとに使用するスクレーパーが異なるのでそれをしっかり復習しておかなければ、次の実習で大変な思いをすることになると知りました。また、お互いに術者と患者役を交代して行う相互実習では、実際に患者さんへ接する時のような言葉遣いや態度、コミュニケーションの取り方など一番大切なことを忘れがちなので、常に意識することが必要であると感じました。

以上から、来春はコミュニケーションをしっかりとる、講義や実習で学んだことを日頃から復習する、身だしなみや挨拶等の社会に出るうえで当たり前に行っていなければならないことをいつも意識する、この3つを特に頑張る必要があると考えました。また、前期ではすでに何度か欠席してしまったのですが、来年はさらに実習の回数も増え、新しいこともたくさん学ぶようになるので、1日欠席するだけでかなりの遅れをとることになってしまいます。ですので、今から体調管理をしっかり行い、来年度は無欠席を達成できるように気を配りたいです。卒業後、良き医療人となるためにこれらを常に心がけて行こうと思います。

歯学部生の活動

歯学科3年 橋本 宙

歯学部での生活も3年目を迎え、大学生活6年間の折り返し地点が見えてきました。3年生では専門的な科目の講義、実習が増え、より充実した日々を送っています。今回は3年後期から始まった実習と所属している部活動について書こうと思います。

現在、保存修復学と歯冠修復学の実習を行なっています。基本的にこれらの実習は予習前提で進み、自分で何をすべきかを考え、手を動かして実習を行う必要がありますが、実際に自分で考え、手を動かして作業を行うことの難しさを感じさせられています。私は目の前のことに集中するあまり、その作業の後に行うことを忘れ、スムーズに実習が進まず、周りの同期より遅れることがあります。実習に対してマイナスな気持ちになることもあります。その一方で製作物が正確にできた時などは達成感があります。また、実習では周りの同期からとても良い刺激をもらっています。周りの同期の手際の良さを見ていると自分に足りないものが何かはっきり見えてきて、それを意

識して実習を行うことでより良い学びになっている気がしています。刺激を貰うだけでなく、自分も与えられるように今後の実習に向き合っていきたいと思います。

部活動については私が所属するバドミントン部では夏に愛知県でオールデンタルが開催されました。新型コロナウイルス流行により4年ぶりの開催となりました。北は北海道大学、南は九州大学からと23大学の参加があり多くの学生が集まり、大会が開かれました。先輩からかなり大きい大会であるということは聞いていましたが、想像の何倍も規模の大きい大会でした。大会では日頃のバドミンントンの鍛錬の成果を発揮するとともに全国の歯科大学間の交流を深め、有意義で楽しい4日間を過ごすことができました。バドミントンというスポーツを通して大学間で刺激を与え合うことができ何より楽しかったです。

この夏のデンタルを境に幹部代が交代となり、現在は幹部の代として活動しています。来年のデンタルでの活躍を目標に日々努力しています。実習で忙しい日々が続くと思いますが、部活動に手を抜くことなく両立して今後もより充実した学生生活を送っていきたいです。



愛知デンタルにて 筆者2列目左から3番目

将来のための土台づくり

歯学科3年 山本采奈

3年生になり、口腔生化学や口腔生理学など名前に「口腔」のつく講座が増えたなと感じました。それらの講座や解剖学実習の予習・復習、夏休みに開催されるデンタルに向けた練習に取り組んでいると、あっという間に前期が終わっていました。解剖学実習の際には、私たちのために献体してくださった方とその御家族に感謝しながら、今後臨床で役立つ知識をしっかりと身につけねばという思いで臨みました。デンタルはコロナ明けの久々の開催でした。初めて他大学の歯学部生とバドミントンを通じて交流し、大学生活の情報共有をする中で新たな発見もあり、楽しい経験でした。

後期に入り専門科目が一気に増えたことで、将来歯科医師になるのだと一層強く自覚しました。授業を聞いてもすぐには理解できないことが多くなり、予習・復習の時間が自然に長くなっている気がします。歯冠修復学実習に関する事前学習や教科ごとの提出物など、毎日するべきことが多いので、自分でやることリストを作ったり、友達と確認し合ったりして忘れないようにしています。

カービング実習も始まり、ワックス棒から上顎左側中切歯の模型を再現しました。授業中では削り終わらないので、自宅で少しずつ削り、完成させました。デジタルワックスアップも含め、さらに5本の歯を作る必要があるので頑張りたいと思います。以前までは歯を漠然としか見ていませんでしたが、歯の形態学やカービング実習を通して歯の形態の特徴に注目するようになり、歯を見る視点が変わった気がします。病理学の実習ではバーチャルスライドを使って異常組織像を観察しています。バーチャルスライドなので授業時間外でも組織像を観察でき、復習に役立っています。実習が進むにつれて、基礎科目と専門科目との関連を感じるようになってきました。基礎科目で習った正常組織像や疾患の原因と関係する代謝の機序など、忘れていたことも多くあることに気づき、基礎科目を復習する必要性を感じています。今後は基礎と専門の関連を意識しつつ、総合的な視点をもって取り組みたいです。

実習が増え忙しくなってきましたが、これらは全て次年度の学習、ひいては将来患者さんにとって最善の治療を選択することに繋がるので、今が頑張りどころだと自分を奮い起こしています。辛い時は同期と協力して乗り越え、来春を迎えたいです。



下顎右側第一大臼歯のワックスアップ

歯学部生の活動～翌春に向けて

口腔生命福祉学科3年 五十嵐 清 華

月日が流れるのは早いもので、私たち18期生は3年生の後期に突入しようとしています。そこで、「歯学部生の活動～翌春に向けて」というタイトルのもと、普段の学生生活について書かせていただきます。3年に進級してからは歯科に加えて福祉の学習も始まり、PBLの数科目同時進行やさまざまなスライド作りなど、慌ただしい毎日を送っていて、コロナ禍の時には恋しがっていた対面授業ですが、今は、オンライン授業が恋しいくらいです。

さて、3年になってからというもの、私は就職について考える時間が格段に増えました。それは進級当初、先生に言われたのがきっかけです。焦りだした私は、福祉系の仕事に就きたいとなんとなく考えていたので、今年度からさまざまな活動に参加するようになりました。まず始めたのは、社会福祉協議会が行っている子ども勉強会の「大学生サポーター」です。これは、貧困世帯の子どもを対象に、個別的に勉強を教えるのですが、休憩中に学校の話や趣味の話をしてくれるのでとても楽しいです。次に始めたのは、児童相談所の一時保護のボランティアです。ここでは、一時保護されている子どもたちと一緒に遊ぶなかで、相手のことを傷つけない声掛けを教えたり、大人と子

どもの間である大学生にだからこそ話してくれることを聞いたりしています。繊細な子が多いので大変ですが、同時にやりがいもすごく感じることでできる活動です。このほかにも知的障害をもつ子と一緒に体操や料理をするボランティアなどにも参加しました。知的障害といってもさまざまな種類があり、活発な子からおとなしい子までいろいろな子がいて、もっとこの子達について知りたいと思うことができました。

また、最近は歯科医院でもアルバイトを始めてみました。歯科衛生士の現場での役割や、閉院後の教え合いなどを見ていると、歯科衛生士も魅力的な仕事だと感じました。

このような活動を通して、歯科や福祉の現場を少し知ることができました。しかしながら、そこで見てきた現場の方々には明るくポジティブで、「自分とは違う」と自信をなくしてしまい、余計就職先に悩んでしまいました。そんな中でも、同じ悩みを抱えた友達や、不安な気持ちをすべて受け止めてくれる優しい先生がいることにも気づきました。

後期には、大学病院での臨床実習や福祉施設での現場実習が控えています。不安でいっぱいですが、そのような周りの力を借りて、来春、本格的に始まる「就職活動」に向けて、たくさんの経験を積んで自分にとって最善の道に進めるよう精進していきます。残り1年半の大学生活を楽しむことも忘れずに！

歯学部生の活動～翌春に向けて

歯学科4年 向井光優

歯学部に入学してから既に3年が経過し、4年生も残り半分を切っている。入学してから現在までのことを振り返ると、1～3年生までは人体の構造や歯科材料の組成や特徴など基礎的な内容を学習していたが、4年生になるとほぼ毎日臨床に即した内容の勉強をしている。講義では複数の症例が取り上げられ、それぞれの臨床症状や実際に行われた治療法などの説明を受け、グループディスカッションの時間では、与えられた症例について班員と話し合いながら最適な治療法は何か考えている。実際に治療法など自分の頭で考えることで、講義で得た知識が整理され、少しずつではあるが定着してきているように感じている。

さて4年生の後期に突入し、最も苦労していることは週4日の実習である。夏休みが終わると矯正学実習や歯周病学実習、歯内療法学実習、欠損補綴学実習（部分床義歯やブリッジを製作する）などさまざまな分野の実習が始まった。実習を通して、これまで座学で学んだ知識同士が繋がっていくことを実感でき嬉しくなる一方で、毎日主体的に勉強しなければ周りに置いていかれる環境であり大変だと感じる日も少なくない。実習ではあらかじめその日の実習内容を予習しておかないと当日全く手が進まなくなるため予習は必須である。また予習をしても慣れない作業でミスをすることは多く、やり直しとなると周りの友達に後れを取って焦ったり、思い通りにできない自分

に苛立ったりすることが多々ある。しかし1度失敗することで何がいけなかったのかについてよく考えるため、注意しなければいけないことが記憶に残りやすく、とても勉強になる。1年後には臨床実習が始まるが、臨床の場でできるだけミスを減らせるように今のうちに多くの失敗を経験しておきたいと思う。

そして後半年もすれば5年生となり、5年生で待ち構えているのはCBTやOSCEである。これらは臨床実習に取り組む前に必ず合格しなければならない試験であり、5年生までの間に学んだ知識や技術がきちんと身についているかを試されるものである。先輩方がCBTやOSCEについて話している頃は自分にとってはまだまだ先のことのように感じていたが、気づけば自分たちの番となっており時の流れの早さを実感している。勉強面においても実習面においても不安なことがたくさんあるが、友達と支え合い、たまには息抜きをして楽しみながら残りの学生生活も頑張っていきたいと思う。



矯正学実習にて 筆者右から3番目

歯学部ニュース

歯学科4年 森田 壮

歯学科4年の森田壮です。大学生活も気づけば折り返しになり、来年には臨床実習で実際に患者さんを治療すると思うと、今から緊張と恐怖で鳥肌が止まりません。実習などでの自分の不器用さ等に不安を覚えておりますが、最近では成功した時より失敗した時の方が学ぶ事が多いとポジティブに捉え、マネキン相手に沢山失敗して沢山学び、来年以降に繋げていこうと思うようになりました。ただ、そんな私でも成長したと感じられることがあります。それはデンタルIQの向上についてです。歯学部に入る前、私は歯磨きも適当で、小さい頃にはよく虫歯で歯医者に通っていました。それでも歯学部に入り、う蝕学や予防学などを勉強したことで、歯や口腔ケアに対する意識というのが向上し、今では歯間ブラシ、洗口液まで

使わないと気持ち悪くて寝られないほどにまで成長しました。デンタルIQには、その人の知識や環境が大きく関わっている事を実感し、将来歯医者になった時に歯や口腔ケアに関する情報を患者さんに伝える事も重要なのだなと思いました。良い情報を患者さんに沢山伝えられるよう、これからも勉強や実習を頑張っていきたいです。



実習終わりのお疲れなみんな。
筆者は前列右から2番目



矯正実習のワイヤーベンディング中 筆者 右



遊ぶ時も全力で。筆者 前列右端

歯学部生の活動～翌春に向けて～

歯学科5年 加藤由佳

歯学部ニュースの原稿の依頼を受け、この機会に5年生の前期の振り返り、これからの私の取り組み方について書かせていただきたいと思います。

5年生に進級してから、臨床予備実習、CBT、OSCEを乗り越え、半年が過ぎました。臨床予備実習は、4年生までの学習を同期で実践という形で、模型実習より患者さんを配慮することを考えさせられました。CBT、OSCEは、歯学部に入學してから、初めての外部の試験ということで不安でいっぱい、試験当日は今でも忘れられないほど緊張しました。CBTに関しては、試験日が1か月延期となる経験をしました。社会に出てからは、学生の時と違い、すべてが予定どおりに進むといくことはないと思います。自分でどのように集中を保つか、予定外のことにどのように対応するかを考えさせられる良い経験になりました。前期を振り返ると、同期と協力し励まし合い乗り越えることが多く、改めてとても良い同期に恵まれていると感じます。周りの人を大切に、これからの臨床実習を努めていきます。

これからは、Student Dentistとして病院で患者さんを担当させていただきます。登院式の際に、新たな名札を頂き、1年生の入学時の初々しい写真と比べ、成長したと言いつつ次の日に、患者さんの引継ぎが始まりました。今までの実習とは違い、失敗は許されません。自分の準備、学習、技能のわずかな抜けが患者さんに影響します。気を引き締め、患者さんを第一に考え、行動していきます。登院してから約1か月が過ぎ、

先生方から多くの指導を頂いながら診療を行ってきました。その中で、自分の不足を痛感しました。診療の難しさを体感しました。先輩方が診療しているところを見て、私も1年後、後輩に引き継ぐまでに、一つでも多くを成長しなければなりません。自分たちの実習にご協力いただいている患者さん、ご指導いただく先生方への感謝を常にもち、1年という短い時間を、一生懸命努めていきます。

最後に、この文章が歯学部ニュースに掲載される時には、患者さんを担当し、治療をさせて頂いてから約半年が経っていることと思います。私がこの歯学部ニュースを見るとき、一つでも多くの知識、技能が自分のものとなっているように、精進していきます。



自分専用の机を手に入れました

翌春に向けて

歯学科5年 水 上 大 河

8月末、タイトルにもあります通り「翌“春”に向けて」をテーマに歯学部ニュース寄稿のご依頼をいただきました。その時点では、予期せぬ延期となったCBTが眼前に迫り、私としては翌“秋”のことすら考えられない状況でありましたが、結果としては無事に秋を迎えることができましたので、まずはこの場をお借りしてCBT・OSCEの運営に携わって下さった先生方と関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

春の見通しを立てられるようになるまで記事を寝かせておりましたところ、気付けば臨床実習が始まって1か月以上が経過しておりました。臨床実習が始まった10月は引継ぎ期間で、頼もしい先輩方に甘えながら過ごしてしまいましたが、すぐに実習生として立ち立しなければならぬようになりました。

そうしてあっという間に過ぎていった11月ですが、今振り返ると4年目（2年次編入なので）を迎える歯学部生活史上最も過酷で、心身ともに追い詰められた1か月でした。自分で組んでしまった連日の診療と、それに付随するレポートや模型での練習に追われ、外来の見学では口腔外バキュームをつけたり消したりすることしかできず、接着に使う歯科用セメントも満足に練ることができず、模型実習でできるようになったつものことが実際にはできていなかった現実を突きつ

けられ、これまでやってきたことが自分のものになっていなかった事実に気付いてしまいました。

しかし記事の作成にあたって歴代歯学部ニュースを振り返りますと、これまでの先輩方も5年生になると軒並み似たような思いを経験しているようでした。私のこの1か月間の苦しみも新潟大学歯学部のカリキュラムの掌の上だったのかもしれないと思うと複雑ですが、精神面についてはある意味順当に臨床実習を進められていると考えようと思います。

ここまでを踏まえて、翌春に向けた私の目標を立てました。それは自分の現在地を再認識し、前向きに受け止めていくことです。今後も診療や見学に向けて精一杯準備して臨んだとしても、己の至らない部分や力不足を感じる機会は幾度となくやってくると思います。しかし、そこで悩んでしまう時間も心の余裕もないことがこの1か月間でよくわかりました。いちいち思い悩むようなことはせず、冷静に原因と改善策を検討して次に生かすことが必要です。このような挫折と立ち直りを春までに何回も繰り返しながら、その都度強い自分になれるよう精進していきたいと思います。そして春を迎えるころには、挫折の機会自体もぐんと減っているようになることを願うばかりです。

最後に、このような成長の機会をいただけているのは、先生方の親身なご指導と患者さんのご協力、そして応援してくれている両親の支援あつてのことです。私の臨床実習に関わってくださっている全ての方へ感謝の思いを忘れず、残り短い学生生活を実りあるものにしていこうと思います。

SCRP報告

SCRP日本選抜大会を通して

歯学科4年 西村隆之

こんにちは。歯学部4年生の西村隆之です。令和5年8月に、私は新潟大学の代表としてスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会に出場させて頂きました。SCRPは日本歯科医師会主催で毎年実施されており、学生が英語で研究発表を行い、研究内容及びプレゼン力のクオリティを競い合う大会です。本年は17の歯科大学／歯学部の参加し、4大会ぶりの対面での発表・審査となりました。久方ぶりの対面開催であるのに加え、コロナ流行前ではポスターセッションだったものがパワーポイントでの発表となりました。

私の研究テーマは、「Canonical Wnt signaling in pre-migratory cranial neural crest cells determine their post-migratory cell proliferation in orofacial development (顔面を形成する神経堤細胞の遊走後の細胞増殖は、遊走前の神経堤細胞での古典的Wntシグナルにより決定される)」でした。

数ある分野の中で発生学を選択した理由は、顔面領域の発生メカニズムの解明は他の歯科疾患の理解を深めるためにも重要だからです。特に口唇口蓋裂は形態的先天性疾患の中でも多く、歯科口腔分野の課題の一つであり現状の侵襲的な外科のアプローチだけではなく、その解明という面でも重要になると考えます。研究の中で印象深いことでは、現在こういう報告があるから、また教科書的にこうだから、KOマウスはこうなるに違いないと考えたとしても、実際には生体であるが故に想定した結果を得られないことがありました。結果が出たらなぜそうなるのかについて思考しその内容に沿った研究方針に切り替えて実験します。未知があまりに多いがゆえに結果に振り回されま

すが、ピッタリとパズルのピースがハマるような瞬間があります。そのような小さな積み重ねが、発生過程の解明の一助になれば幸いです。

約2年の研究期間とプレゼン発表の準備を経て大会に臨みました。結果は残念ながら上位入賞には至りませんでした。短い大会期間で私は多くの成長を得られたと考えます。英語での慣れないプレゼンをやり切り、他校のリサーチマインドを持つ同期の代表者達に出会いました。そのような、経験は貴重なものとなりました。

最後になりますが本大会に参加するのにあたり、多くのご支援ご協力を賜りました。今回の共同研究者である小暮さんをはじめとして、研究の機会と環境をご用意してくださり、ご指導賜りました口腔解剖学分野の大峽淳教授、東京の大会にまで足を運んでくださり様々なご相談にも乗ってくださった同分野の川崎真依子准教授、実験指導していただきました同分野の川崎勝盛助教、SCRPについて対応してくださった歯学教育開発室の石田陽子准教授、大会本部との連絡や書類の準備に奔走してくださった学務系の渡部康雄様に深く感謝申し上げます。他にも多くの激励を賜りました先生方、プレゼンの確認や話を聞いてくれた同期など重ねて御礼申し上げます。



SCRP会場にて 筆者右

6年生国際学会参加報告

シンガポールでの見学を終えて

歯学科6年 安藤まな

11月19日から23日まで魚島先生と長澤先生、歯学科6年の坂上さんと後藤さんと共にシンガポールに行っていました。SEAADEという歯科教育の学会への参加とシンガポール国立大学歯学部の見学、大規模クリニックの全民Q&Mの見学を行いました。

学会では、講演の他に学生のポスター発表や口頭発表もありました。ポスター発表では、創意工夫を凝らしたプレゼン作品（子供たちに歯科について興味を持って予防や治療に取り組んでもらうようにするためのオリジナルのすごろくゲームなど）もあり、海外の学生の研究への強い熱意と発信力を感じました。また、学会で仲良くなった香港大学の学生は口頭発表をしていたのですが、彼女は発表も質疑応答もとても上手で、同じ6年生とは思えないほど素晴らしかったです。コロナ禍でオンライン開催になってしまいましたが、私自身もSCRPとヨーロッパの国際学会（ESSD）に出させていただいたことがあります。私も精一杯頑張りましたが、海外の学生のレベルの高さに驚愕しました。今回、目の当たりにした海外の学生たちは非常に強い探究心や向上心があり、勢いが違いました。海外では歯学部は人気な学部で、入学も進級も厳しいため、学生たちは必死で勉強しています。英語はもちろんのこと、高い能力を持った彼らがこれから私たちと同じ時代の歯科医師になっていくと思うと、私たちはもっと努力し続けなければならないと感じました。私は大学院で研修予定ですが、その後、大学院に進学するかは考えているところです。今回の貴重な経験を踏まえて将来についても考えていきたいと思いました。

最後になりましたが、魚島先生をはじめ、支え

てくださったすべての方々に感謝します。ありがとうございました。

歯学科6年 坂上莉奈

2023年11月19日から4日間、クラウンブリッジ科の魚島教授と長澤先生と共にシンガポールに滞在し、学会への参加や大学やクリニックの見学を行いました。

学会SEAAEDへの参加では、マレーシア、韓国、タイ、インドネシア、ベトナムなどから多くの先生方や学生が集まり歯学教育について探求しました。学生も研究ポスターやプレゼンテーションを行っており、各国の同じ学年の生徒が流暢に発表している姿にとっても感銘を受けました。また、他にもAIを歯学教育に取り入れる内容が、とても興味深かったです。日本の学生との違いや差も感じましたが、海外の学生との交流も行う事ができとても有意義な時間でした。また、その場で知り合った海外の歯学部生の子達とはお互いの教育カリキュラムや、臨床実習の現状について話し合う事ができ各国の歯学部事情を知る事ができました。そして、シンガポール大学の見学では実



シンガポールの歯科医院の10軒に1軒が所属する
大規模歯科医院グループQ&Mの本院にて
(筆者右から2、3、5人目)

習の形態や実習機材の構造、シモドントの設置など、新潟大学と共通する点もありました。

また、現地の大型歯科クリニックの見学では、独自のAIソフトを開発しており、パノラマX線を数秒間読み込ませるだけでう蝕の部位、根治の本数などを明らかにした上で、患者さんに提示する説明付きの資料まで作成できておりとても効率的だと感じました。

最後になりましたが、今回の滞在は現在の世界の歯学情勢を知る事ができ大変勉強になりました。自分に足りないところやこれからの未来について深く考えるきっかけになりました。このような機会を与えてくださった魚島教授、長澤先生、そして許可して下さった歯学部長井上先生、学務の皆様ありがとうございました。

歯学科6年 後藤 崇

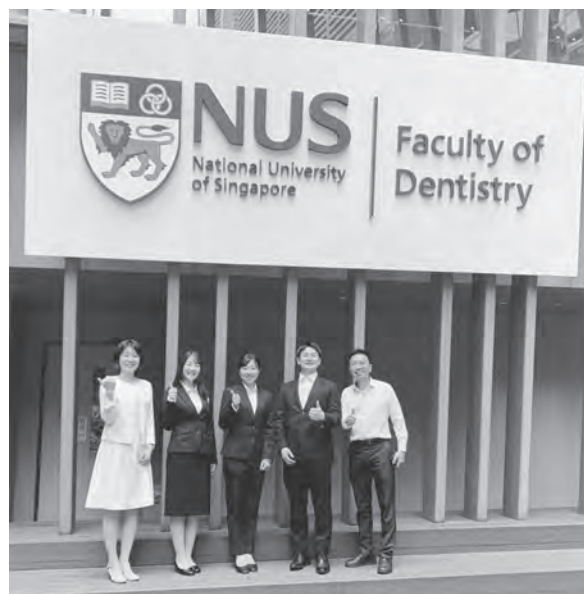
今回の滞在では、シンガポールをはじめとする各国の歯科業界について知ることができ、その勢いと数多くの優秀な人材に大いに刺激を受けました。まず、東南アジアの多くの国で歯学部と言えば、ともすれば医学部を超えるほどの人気があり、日本と比較にならないほど入学が困難な場合もあると知り驚きを隠せませんでした。たとえばシンガポールには一つしか歯学部はなく、毎年10倍を超える入学希望者が殺到するため、オールA

の成績のエリートでなければその道を閉ざされるといいます。また、香港も同様に歯学部は一つのみで非常に狭き門だそうです。6年間のカリキュラムの内5年間も臨床実習に費やすそうです。実習では学生一人につき看護師一人が付くといい、教育のあまりの手厚さに驚嘆しました。日本では1年しか臨床実習がないと伝えるとその短さに驚いており、卒後1年間の研修義務についても納得した様子で当然必要だろうと言っていました。彼らのような高い能力と堪能な英語力を活かして世界中に発信できる学生が、今後歯科医師として世の中に出ていく中、我々日本人がいかに存在感を示していけるかが課題になると感じました。

一方、日本のコンテンツの偉大さに気付かされることは何度もありました。SEAADEの1日目の夜には歓迎パーティが催され、中には各国の歌や踊りなどのパフォーマンスで盛り上がる場面がありました。日本の出番では参加者全員でドラえもんの主題歌を歌いましたが、曲が流れるや会場から大歓声が起こり、中には歌詞を口ずさむ人々もいて、大盛況のうちに終わることができました。大学病院や診療所の小児ユニットでも、ディズニーに並んでポケモンなどのキャラクターのグッズが多用されており、日本にも世界に誇るいいものを生み出す力があるのだと勇気をもらいま



SEAADE会場にて（筆者中央3名）



シンガポール大学歯学部の見学（筆者中央3名）

した。

自由時間には数多くの観光名所を満喫することができ、シンガポールならではの言語も宗教も肌の色も関係なく活気に満ちた雰囲気を味わうことができました。海外旅行も簡単ではない今日、学

生のうちにこのような機会をいただけて人生の視野が広がったように思います。魚島先生をはじめ、サポートしてくださった方々に厚く御礼申し上げます。

